

150回研究会記念特別企画

(1) 特別講演：産業界からの今後のアーキテクチャ研究への期待

アーキテクチャはどこへ行く？

木村 康則（富士通研究所）

略歴：1981 東工大（修士）了。同年富士通研究所入社。1985-1988（財）新世代コンピュータ技術開発機構（ICOT）出向。1995 スタンフォード大学（短期）客員研究員。2001 より東京大学客員教授。人工知能言語専用マシン/コンパイラ、プロセッサアーキテクチャ、計算機システム評価、自律システム、などの研究開発に従事。現在、同所 IT コア研究所 IT アーキテクチャ研究部長。博士（工学）。

アーキテクトの苦勞：コモディティ化の是非

中田 登志之（NEC）

略歴：1985 京都大学工学研究科博士後期過程単位取得退学同年 NEC に入社。入社以来並列計算機アーキテクチャの研究、専用処理マシンの研究、CDN アーキテクチャの研究などに従事。現在 NEC インターネットシステム研究所統括マネージ兼 NEC ヨーロッパ C&C 研究所所長。博士（工学）

日本を支える S o C アーキテクチャ研究への期待

内山 邦男（日立製作所）

略歴：昭 51 東工大・理・情報科学科卒。昭 53 同大学院情報科学科修士課程卒。同年（株）日立製作所中央研究所に入社。以来、CAD、メインフレーム、キャッシュ、マイクロプロセッサの研究に従事。東工大・博士（工学）。現在、同研究所主管研究長。第 30 回市村賞、平 11 年度科学技術庁長官賞受賞。